

天理村の日本人墓地が消える！

石金楷さんから緊急アピール

敗戦後65年たった旧満州各地には、当時厳しい条件の中で、無念の死を遂げた同胞の埋葬地が数多くある。そのほとんどは時とともに訪れる人も稀で、永劫の時間の中にひっそりと埋没しかかっている。だがハルピンのような市街地では、今年度始まる都市現代化の波に洗われようとしている墓地がある。これを知った、ハルピン日本残留孤児養父母連絡会の事務局長・石金楷さんからSOSが届いた。すぐこれを日本語に訳し、原文とともに天理市川原城町の関係部門に送った。

参考までにこの部落はハルピン郊外の、松花江と阿什河の合流するところで、土地は肥沃、典型的な東北松嫩平原・黒土地帯。ハルピン市道外区民主郷光明村で村の戸数300余り、村民300人ほどだそうである。

なお石金楷さんのデータによって、昨年、長野県の高校生を連れてここを訪れ、遺骨の話聞いたという大野のり子さんと連絡することができた。彼女は現在、山西省呂梁市臨県招賢鎮賀家湾村という山村で聞き取り調査を続けているが、こう語っている。

「天理教の担当部門と連絡を取り、情報を伝えました。天理教団には当時の満蒙開拓団の関係者の方々に作る団体があって、その方々がすでに動いています。現在は厚労省と中国政府との話し合いの段階に入っているそうです」

奥村 正雄

3か所に眠る遺骨

新年が始まり、万物が新しくなったこの時期に、私はハルピン市残留孤児養父母連絡会を代表し、先生に心からのご挨拶を申し上げ、ご健康とご幸運をお祈り申し上げます。

2010年9月、黒竜江省農業科学院がハルピン市道外区民主郷に広大な土地を確保し、現在黒竜江省国家級現代農業モデル地区を建設中であることを知りました。光明村天理部落「あひる溝」西丘にある「日本人墓地」もそこに含まれ、2011年に大規模な開発が計画されています。そうすると墓地内の開拓団の遺骨が保存できなくなります。忘れてはならない歴史を保存するため、省の関係部門に意見を求めた後、私達は3か月かけて、関係資料を調べ、とりわけ日本の開拓団遺跡、日本人墓地、「万人坑」を実地調査いたしました。そして広く現地の住民を訪ね、ずっと天理村に住んできた2人の87歳の村民に会って話を聞きました。私たちが整理した「濱江省天理村開拓団」及び「日本人万人坑」の調査報告を送りますので、ご覧の上、ご意見と今後の処理案について、私達に連絡していただきたい。



土地の古老・周伝明さん（91歳）から話を聞く石金楷さん

私たちの調査したところによれば、1945年、日本政府が投降を宣言した後、近くで暮らしていた開拓民は開拓団本部に殺到しました。しかし極度に劣悪な衛生条件下、多くの開拓民が重い伝染病にかかって死亡、部落の西の「アヒルの溝」、西の丘の「日本人墓地」、部落の東の「万人坑」（もともとは、開拓団の野菜保存穴）へ、そそくさと埋葬したものです。

移動して安置を

関係資料の記載によれば、「浜江省天理村開拓団」は日本の天理教青年会が組織したものであり、天理教は日本固有の宗教の一宗派であり、現在も日本で一定の影響を持っているこのニュースを天理教会に伝えていただき、この件について天理教本部が重視し、しかるべき対応をしていただくようお願いしたい。それと同時に、あなたの社会的な影響力で、友好団体、友好人士がこの件に関心を持っていただき、戦後の混乱の中、伝染病などで亡くなった開拓民の遺骨が、今回の大規模都市開発のために損壊されることのないよう、速やかに適切な移動と安置をしていただくようお願いしたい。

ハルピン市が所管する方正県に中日友好園林があり、そこに中国で唯一の日本人公墓と中国養父母がある。日本人公墓には5500余りの遺骨が入っており、これは故周恩来総理が許可して1963年に建設されたものである。もしも関係部門と話が通じ、批准を得ることができれば、上述の日本人の遺骨をここに移して弔い、この緑の樹木とお花に覆われた静寂な墓地は、異国で落命した靈魂の最も佳い安息の地となるだろう。もちろんこの目的を達成するためには、私たちの努力と各方面の支持が必要ですが、私たちの会は全力でこの中日人民の友好事業を進めるために努力いたしますが、共に奮闘努力しようではありませんか。

ハルピン市日本残留孤児養父母連絡会
事務局長 石金楷